

～茨城県景気ウォッチャー調査結果(平成25年3月調査)～

庶務・企画分析グループ
電話：029-301-2642

茨城県統計課では、本県の景気に関する生の情報を得るために、本県で働く多様な職種の方たちから景気の状態を3か月ごとにアンケートで情報収集する、県独自の景気ウォッチャー調査を行っています。今回は、この調査について、直近（平成25年3月）の調査結果の概要をご紹介します。

1 調査の特徴

景気関連の統計には、景気ウォッチャー調査のほかに、鉱工業指数、景気動向指数、県内総生産四半期速報などがありますが、景気ウォッチャー調査の主な特徴は次のとおりです。

- ・県内で働いている人々の生の声が聞けるため、実感に近い景気を把握できます。
- ・さまざまな業種の方々にウォッチャーをお願いしていることから、企業サイドのみならず消費サイドの動向も把握できます。
- ・県内5地域に分けて集計・分析をするので、地域ごとの景気動向が把握できます。
- ・調査の翌月には結果を公表しており、リアルタイムの景気を把握できます。

2 調査の概要

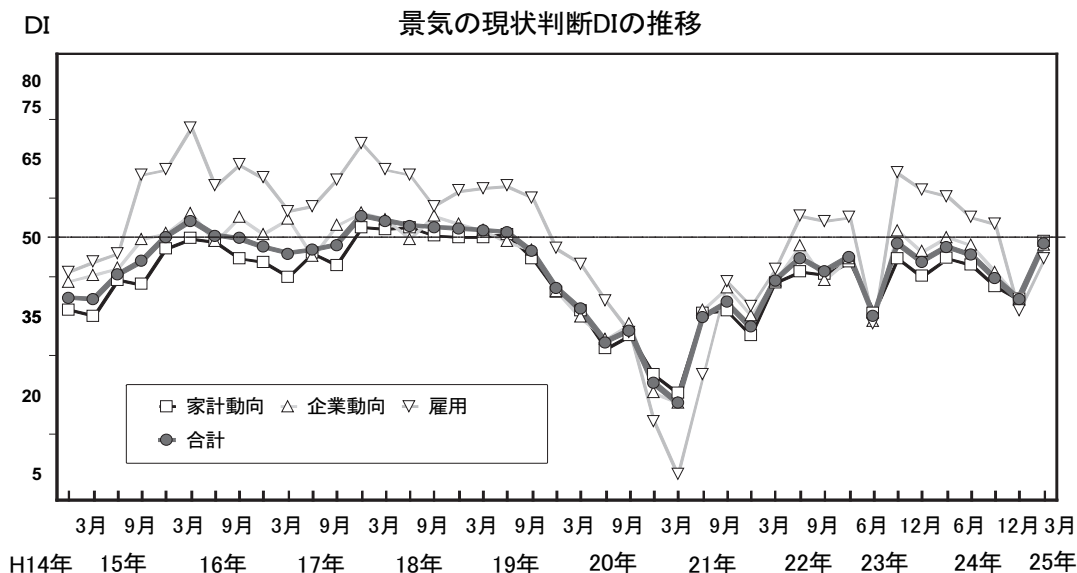
- (1) 調査客体数…県内5地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに60名、計300名。
- (2) 調査内容…景気の現状及び先行きの判断（「良」「やや良」「変わらない」「やや悪」「悪」の5つから選択）とその判断理由（コメント）について回答をもらい、回答割合で指数(DI)化して集計。
- (3) 調査時期…四半期（6, 9, 12, 3月）ごとに実施し、翌月公表。
- (4) 調査期間…平成25年3月1日～3月31日
- (5) 回答率…89.3%（300名中268名から回答）

3 調査結果の概要

- (1) 県全体の現状判断DIは48.9となり平成24年12月の調査（以下、「前回調査」という。）と比べ10.7ポイント上昇しました。また、先行き判断DIも54.9と前回調査に比べ14.2ポイント上昇し、現状判断DI、先行き判断DIともに、前回調査と比べ上昇しました。
- (2) 現状判断DIは、横ばいを表す50を依然として下回っており、引き続き景気は下降局面にあると判断されます。
- (3) 先行き判断DIは、横ばいを表す50を平成19年9月以来、21期ぶりに上回りました。

区分	景気現状判断 DI		景気先行き判断 DI		(注)「変化傾向」の説明： DI 値 50 超 DI 値 50 DI 値 50 未満
	() は前回調査との比較	変化傾向 (DI 値 50 を基準)	() は前回調査との比較	変化傾向 (DI 値 50 を基準)	
県全体	48.9 (+10.7)	↘ (22期連続)	54.9 (+14.2)	↗ (21期ぶり)	※DI (Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つであり、景気の方向性（景気が上向きか下向きか）をみるもので、50が横ばいを表しています。 茨城県景気ウォッチャー調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比(%)で乗じてDIを算出しています。
県北	44.5 (+10.6)	↘ (6期連続)	52.0 (+13.2)	↗ (6期ぶり)	
県央	50.5 (+11.6)	↗ (22期ぶり)	58.8 (+17.6)	↗ (22期ぶり)	
鹿行	47.3 (+7.6)	↘ (21期連続)	52.2 (+12.5)	↗ (4期ぶり)	
県南	56.1 (+15.1)	↗ (3期ぶり)	59.0 (+15.1)	↗ (21期ぶり)	
県西	45.9 (+8.4)	↘ (22期連続)	52.3 (+12.2)	↗ (5期ぶり)	

4 県全体の動向
 (1) 現状判断DI



分野	調査年月	平成24年	平成24年	平成24年	平成24年	平成25年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		48.2	46.7	42.3	38.2	48.9
家計動向関連		46.2	44.9	40.7	38.4	49.4
小売関連		48.5	41.5	43.5	37.3	48.5
飲食関連		38.2	55.6	40.5	41.7	50.0
サービス関連		46.5	45.1	38.0	37.5	48.5
住宅関連		41.7	47.2	41.7	47.2	61.1
企業動向関連		50.0	48.6	43.4	38.1	48.6
農林水産業		40.6	43.8	34.4	50.0	37.5
製造業		45.3	47.3	41.5	34.5	42.4
非製造業		58.1	51.4	47.9	39.6	58.3
雇用関連		57.9	53.9	52.6	36.1	46.1

景気の現状判断DIは、前回調査比10.7ポイント上昇し**48.9**となったものの、**横ばいを表す50を22期連続で下回りました。**

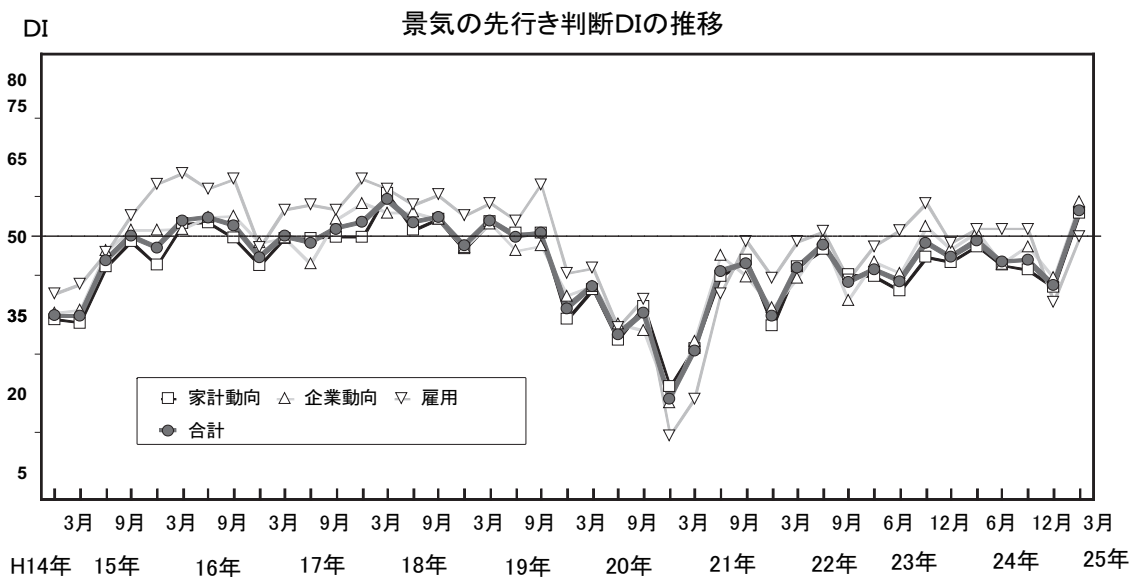
「家計動向関連DI」は、前回調査比11.0ポイント上昇したものの、22期連続で50を下回りました。「企業動向関連DI」は、前回調査比10.5ポイント上昇したものの、4期連続で50を下回りました。また、「雇用関連DI」は、前回調査比10.0ポイント上昇したものの、2期連続で50を下回りました。(いずれも震災の影響で公表を取り止めた平成23年3月を除く。)

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・(百貨店、総合スーパー) **新商品の複数購入や、自分へのごほうびギフト、家族へのプレゼントなどの動きを中心に伸びてきている。**
- ・(小売業(工具)) **政権交代とその後の株価上昇により、多少明るいムードが出てきたので、極端な買い控えは減少していると思われる。**ある程度の上限を設定した購買傾向は上向いていると思われる。
- ・(住宅販売会社) **消費税が上がる前に住宅建築を進めようとしている人達の土地購入が大幅に増えている。**つくば周辺の新規分譲地の売れ行きは好調。
- ・(製造業(非鉄金属)) **大手自動車メーカーからの部品受注は、生産台数が国内、北米向けとも増加傾向から、受注量が増加基調にありフル操業に近い。**人員も不足気味にある。
- ・(人材派遣業) **人員はまだ増員には至っていない。**景気は良くなってきているとは言えない。



(2) 先行き判断DI



分野	調査年月	平成24年 3月	平成24年 6月	平成24年 9月	平成24年 12月	平成25年 3月
合計		49.1	45.1	45.5	40.7	54.9
家計動向関連		48.0	44.6	43.7	40.3	54.5
小売関連		48.5	44.4	44.2	42.3	50.8
飲食関連		51.5	48.6	48.8	35.7	54.8
サービス関連		46.5	44.1	41.7	38.9	55.6
住宅関連		50.0	41.7	44.4	47.2	72.2
企業動向関連		50.9	44.7	48.0	42.2	56.6
農林水産業		43.8	53.1	46.9	50.0	40.6
製造業		49.4	42.4	43.8	39.3	54.1
非製造業		54.4	45.7	53.6	43.8	63.2
雇用関連		50.0	51.3	51.3	37.5	50.0

3か月先の景気の先行き判断DIは、前回調査比14.2ポイント上昇し**54.9**となり、**横ばいを表す50を21期ぶりに上回りました。**

「家計動向関連DI」は、前回調査比14.2ポイント上昇し、21期ぶりに50を上回りました。「企業動向関連DI」は、前回調査比14.4ポイント上昇し、4期ぶりに50を上回りました。また、「雇用関連DI」は、前回調査比12.5ポイント上昇し、横ばいを表す50を1期下回った後、横ばいとなりました。(いずれも震災の影響で公表を取り止めた平成23年3月を除く。)

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・(タクシー運転手) **政府が掲げるデフレ脱却が進み給料に還元されれば、景気は少し良くなると思う。**
- ・(住宅販売会社) **消費税増税前の需要が出てくると思われる。**
- ・(農業関係者) **春の農繁期を迎え、資材高騰が影響してくる。**
- ・(製造業(印刷・同関連業)) **インフレターゲット=物価安定政策で物価上昇を目指すらしいが、自社の現状の経営実態を見ると給与の引き上げは不可能であり、経営の圧迫と困窮が予想される。**
- ・(サービス業(広告業)) **販促予算を使って、ここ数年再版で済ませていた印刷物など、新しく作成する依頼が増えている。一番先に削減されて、一番遅く計上される宣伝費がようやく使われるようになってきた。**
- ・(就職支援センター) **公共事業の増加や金融緩和による景気回復の期待から、企業マインドとしては前向きな話が企業等から聞かれる機会が出てきている。**

(注) 本調査の結果報告書(全文)は「いばらき情報ネットワーク」に掲載されておりますので、ご参照ください(PDF形式)。

URL : <http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/2503/gaiyou.html>